

住民の学習活動を支援する生涯学習情報システム

Information System for Lifelong Learning Activities

酒井成実* *Narumi Sakai*

木梨博和** *Hirokazu Kinashi*



(a)



(b)

生涯学習情報の提供 川崎市役所では、学習相談体制を整備し、住民からの相談にきめ細かい対応をしている(a)。また、住民が学習情報を自由に検索できるセルフサービス端末を設置している(b)。

近年、住民の学習に対するニーズは高まっており、住民は自己の充実や生活の向上のための学習の機会を求めている。これらの学習は、住民の自発的意志に基づいて生涯を通じて行われるものであり、生涯学習と言われている。

文部省は省内に生涯学習局を設置し、生涯学習の振興に資するために推進体制の整備に関する基準を平成4年に告示している。また、生涯学習情報のシステム化に関する調査研究の中で、生涯学習情報の分類と様式の標準化についてまとめるなど、生涯学習の振興に取り組んでいる。

「生涯学習情報システム」は、自治体の各部局が保

有している学習情報(施設情報、講座・催し物情報、団体・グループ情報など)をデータベース化し、学習活動に必要な情報を、住民へタイムリーに提供することを目的とするシステムであり、今後、多くの自治体での導入が予想される。

日立製作所は、自治体のニーズにこたえた生涯学習情報システムを開発し、川崎市役所で平成4年9月に職員による情報提供サービスを開始した。その後、川崎市役所では住民が直接操作するセルフサービス端末を設置し、さらに住民サービスの拡大を図っている。

* 川崎市教育委員会 ** 日立製作所 公共情報事業部

1 はじめに

近年、情報化、国際化、個性重視など激しい社会変化に対応するための学習や、生活上あるいは職業上の資質・能力の再開発の必要性が高まってきている。また、経済の豊かさ、教育水準の高まり、高齢化による余暇の増大からくる生きがいや生活の充実、向上を求める意識が高まってきている。

これら学習ニーズに対し、自治体では住民の学習活動を側面から支援するため、学習活動に関する情報を幅広く、迅速かつ正確に収集・提供することが要求されている。

そのため日立製作所は、このような自治体のニーズに対応して「生涯学習情報システム」を開発した。

ここでは、川崎市役所の生涯学習情報システムを紹介するとともに、このシステムの今後の展開について述べる。

2 開発の背景

2.1 生涯学習情報システムの必要性

現今のわが国の社会では住民の学習活動が多様化、高度化してきている。自治体としての役割は、住民が求めている学習活動に最も適した学習の機会を紹介することである。

そのためには、広域的に学習情報を収集・整理・蓄積し、学習情報データベースの構築、管理を行うことが必要となる。また、各施設(生涯学習センター、公民館や図書館など)では、地域の人々に対する情報提供や学習相談などのサービスができるように、生涯学習情報システムの整備が要求されてきている。

2.2 システムの整備によって期待される効果

生涯学習情報システムの整備により、住民、自治体、情報提供者それぞれに期待される効果を表1に示す。

3 システムの概要と特徴

3.1 システムの概要

生涯学習情報システムは、以下に示す三つのサブシステムによって構成する。

(1) 情報収集

自治体の生涯学習関係部署、住民、社会教育団体などから収集した情報をコード化し、データベース構築のためのデータ作成を行う。

(2) 情報整備

収集された情報を基に、データベースへ新規追加、削

表1 期待される効果 生涯学習情報システムの整備により、住民、自治体、情報提供者に対しおのおの効果が期待される。

区分	期待される効果
住民	<ul style="list-style-type: none"> ●迅速かつ正確に情報が得られる。 ●公共・民間を含め広範囲に情報が得られる。 ●住民どうしの情報交流を盛んにできる。
自治体	<ul style="list-style-type: none"> ●情報を体系的、総合的に収集・提供ができる。 ●質・量とも充実したデータの保存・処理・活用ができる。 ●学習資源の把握とその効果的活用ができる。 ●住民ニーズなどの恒常的把握ができる。
情報提供者	<ul style="list-style-type: none"> ●幅広く提供・PRができる。 ●イベントや施設案内を適切な時期に行える。

除、修正などの更新処理を行う。また、開催期日の経過などにより、不要になった情報をデータベースから一括して削除する。

(3) 情報提供

職員が住民の相談に応じてさまざまな情報を提供したり、住民みずからが操作して情報を入手する。

提供する情報には、大きく分けて以下の3種類がある。

(a) 学習情報

住民の学習活動を支援するさまざまな分野の情報(施設情報、講座・催し物情報など)。

(b) 掲示板情報

グループ・団体の情報交流のための活動内容、イベントなどの情報

(c) 統計情報

生涯学習施策の企画・立案あるいはシステムの改善に利用するための各種統計情報

3.2 システムの特徴

生涯学習情報システムの大きな特徴としては、豊富な検索項目のサポート、および容易な操作性の二つの点があげられる。

(1) 豊富な検索項目のサポート

住民からのさまざまな問い合わせに迅速に対応するため、豊富な検索項目をサポートし、複合検索も可能とした。

(2) 容易な操作性

住民みずからが操作する場合は、高齢者を含めて容易に操作できることが要求される。これを実現するために、このシステムは以下の特徴を持っている。

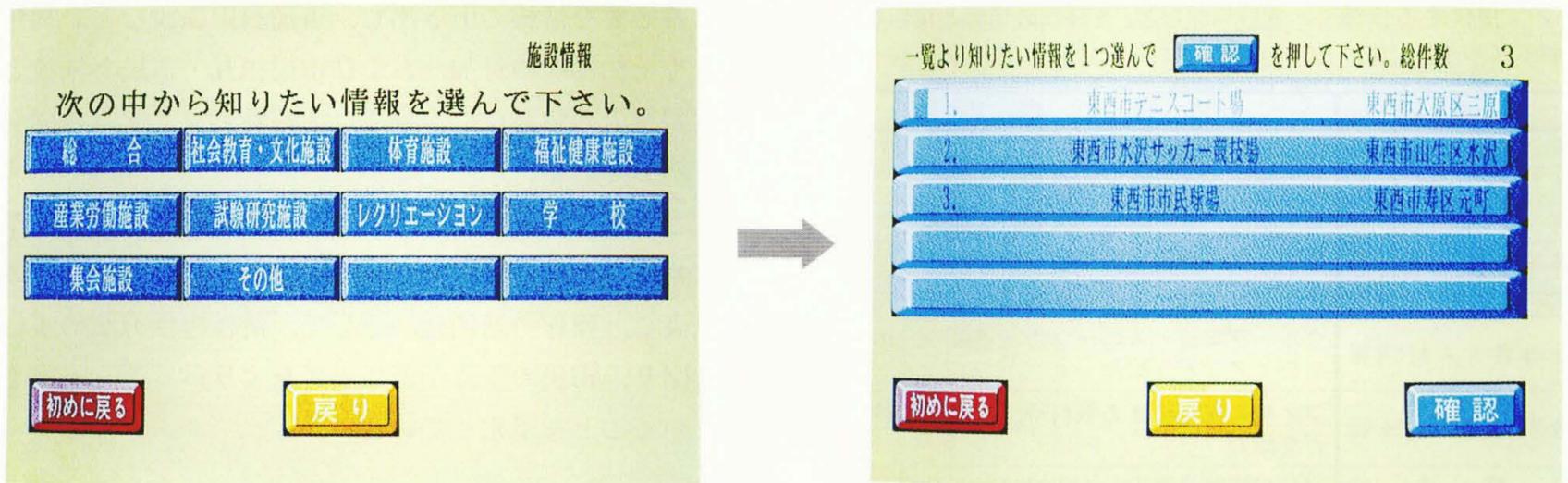


図1 画面例 カラーイメージデータを使用して見やすさ、わかりやすさを考慮した。分類を選んで一覧情報が表示される例を示す。

(a) 画面・音声ガイダンスによる操作案内

画面表示カラーイメージデータを使用し、わかりやすさを考慮した(図1参照)。また、操作を画面へ表示するとともに、音声ガイダンスによって案内する。

(b) タッチパネル操作

画面・音声の指示に従って直接画面に触れるタッチパネル方式により、だれでも簡単に操作できる。

4 システムの導入事例

4.1 導入の経緯

川崎市では、生涯学習の環境作りを目指した各種の提案や取組みを行っており、1982年(昭和57年)には全庁的な取組みとして、「川崎市生涯教育行政連絡会議」を設置して、総合的な生涯学習推進のための第一歩を踏み出している。その後、生涯学習推進基本計画の中で、「あらゆる人々の学習の保障」を目指して、生涯学習情報システムのネットワークと学習相談体制の整備が必要であると提案した。平成3年4月から開発に着手し、平成4年9

月に生涯学習情報システム「ステージラインかわさき」が稼動し、学習活動を支援するさまざまな情報と多様な交流の機会を提供している。

4.2 システムの概要

生涯学習情報システムは、川崎市教育文化会館を拠点とし、職員用端末を30台設置して情報の提供と収集を行っている。情報提供の拡大をさらに図るために、平成5年10月から川崎市役所内情報プラザの市民情報交換コーナーに、市民が直接操作できる端末を設置した。また、神奈川県学習・文化情報システムと連携し、広域情報の収集を分担している。川崎市生涯学習情報システムの全体構成を図2に示す。

4.3 提供情報

川崎市生涯学習情報システムが提供している情報を表2に示す。情報センター(財団法人川崎市生涯学習振興事業団が運営)で情報を整理しデータベースを構築している。データ件数は全体で1万8,860件(平成5年3月末現在)である。内訳を表3に示す。

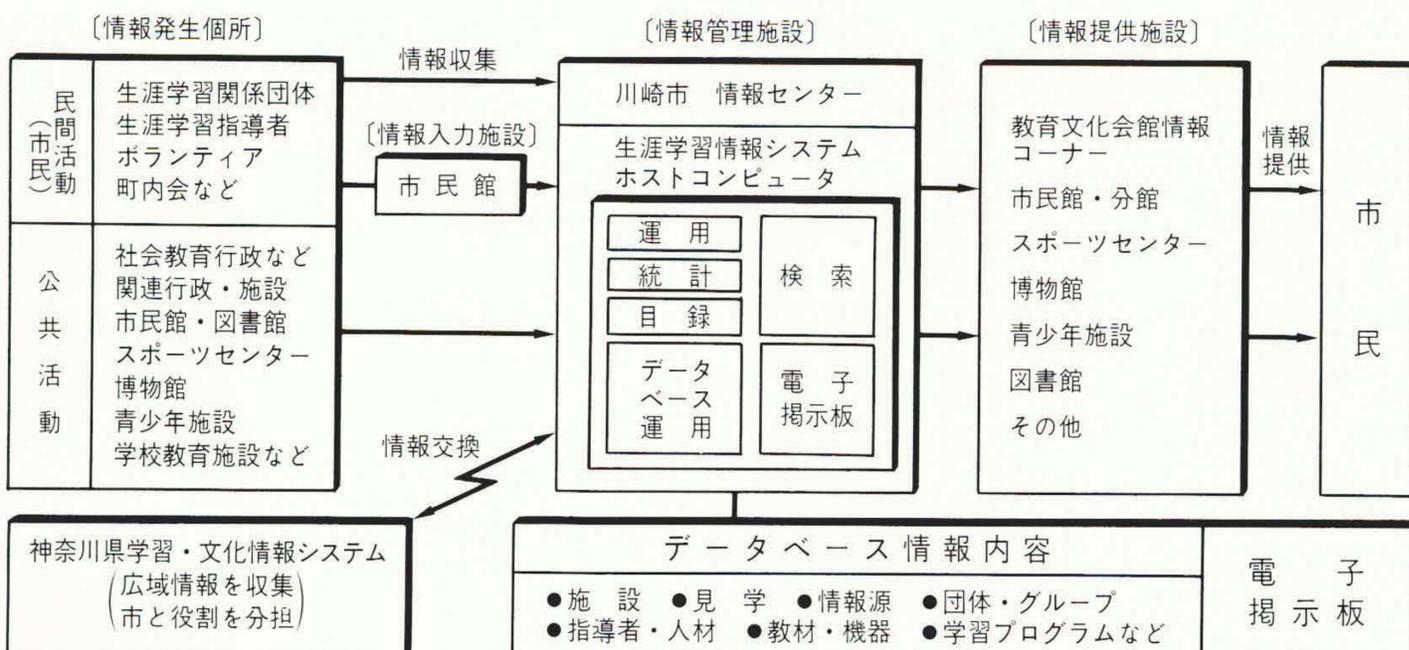


図2 川崎市生涯学習情報システムの全体構成 生涯学習情報システムのネットワークと学習相談体制の整備を図っている。

表2 提供する情報 施設情報など、9種類の情報と掲示板を提供している。

情報名	情報の内容
施設情報	文化施設やスポーツ施設などを紹介
見学情報	観光地や文化財などを紹介
情報源情報	専門情報のデータベースなどを紹介
講座・催し物情報	学級・講座や音楽会などを紹介
団体・グループ情報	グループ、サークル、各種団体などを紹介
指導者・人材情報	グループ学習・スポーツの指導者や、ボランティアなどを紹介
教材・機器情報	フィルム・ビデオの教材や、視聴覚機器などを紹介
資格情報	就職や地域活動のための資格などを紹介
学習プログラム情報	グループやサークルの学習方法などを紹介
掲示板	グループやサークルの仲間募集や井戸端会議などの市民の情報交流の促進

表3 データ件数 川崎市と神奈川県で収集の分担を行っている。

情報名	件数
施設情報	1,729
見学情報	3,233
情報源情報	1,269
講座・催し物情報	1,810
団体・グループ情報	724
指導者・人材情報	1,558
教材・機器情報	6,839
資格情報	771
学習プログラム情報	927
合計	18,860件

注：平成5年3月31日現在

4.4 今後の展開

川崎市生涯学習情報システム「ステージラインかわさき」の今後の展開については、『川崎市における生涯学習情報の収集及び提供について(報告)』(平成元年度)に基づいて、平成7年度までに第二次のシステム開発を完了させる予定である。

第二次開発では、市民から要望されている情報のいっそうの充実、より身近な場所や家庭でのみずからの手に

よる必要な情報の引き出し、市民利用施設などの利用状況や予約機能の付加、および市民相互・市民と施設との情報交流の活発化に十分こたえられるシステムの開発を計画している。

さらに、平成10年をめどに、今後期待される技術革新に対応した機器の性能や経済性の向上に伴うシステムの見直し、操作の簡便化、そして、情報提供方法の多様化を図り、市民の生涯学習の支援をよりいっそう充実させていくことを予定している。

5 今後の展望

生涯学習情報システムは、住民の学習活動を支援する情報を提供することが基本である。しかし、それだけでは住民にとって十分ではなく、学習施設の予約や図書館情報システムの書誌情報の提供など、住民のニーズは多様化している。

情報サービスの拠点は、公民館、スポーツ施設などの公共施設から民間の学習施設へと拡大することが予想される。さらに、住民によって身近な場所や家庭へサービス拠点が広がり、生涯学習情報システムは、今後ますます重要なものになっていくと考えられる。

6 おわりに

以上、川崎市役所の生涯学習情報システムを紹介するとともに、システムの概要について述べた。

近年、多くの自治体では生涯学習に積極的に取り組んでおり、生涯学習情報システムの構築により、住民の学習活動を支援する情報の提供をその施策の一つとしてあげている。わが国は、近い将来に本格的な高齢化社会を迎える。住民としても、生涯学習に対する関心が増していき、自治体の役割もいっそう重要になってくる。

日立製作所は、将来の社会環境の十分な予測をもとに、より豊かな生涯学習情報システムの構築に向けて、自治体とともに積極的なシステム開発に取り組んでいく考えである。

参考文献

- 1) 生涯学習審議会：今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策について(答申)(平4-7)
- 2) 学習情報提供システムの整備に関する調査研究協力者会議：生涯学習のための学習情報提供・相談体制の在り方(昭62-7)
- 3) 川崎市生涯学習推進基本構想策定調査委員会：川崎市生涯学習推進基本構想(平3-3)
- 4) 川崎市生涯学習推進基本計画策定調査委員会：川崎市生涯学習推進基本計画(平5-3)
- 5) 任田, 外：研報第112号生涯学習情報提供システムの今後の展開方法(平3-5)